第3節　淡路の弥生集落の動態(予察)

淡路地域の北部，津名山地と呼ばれる地域を中心にして数多くの高地性集落が存在していることは，これまでから採集資料などにより注意[5]されており，近年では一部発掘調査が実施されている。

また，淡路地域の南部，洲本・三原平野を中心とした地域の弥生集落についても，近年発掘調査が実施され，その様相がしだいに明らかになってきている。

ここでは，それらの成果を受け，出土土器を中心に，今回の編年案などをもとに淡路地域の弥生集落の動態について述べてゆきたい。しかし，諸般の事情により，概略を予察的に述べることとし，詳細については他日に期することにしたい。

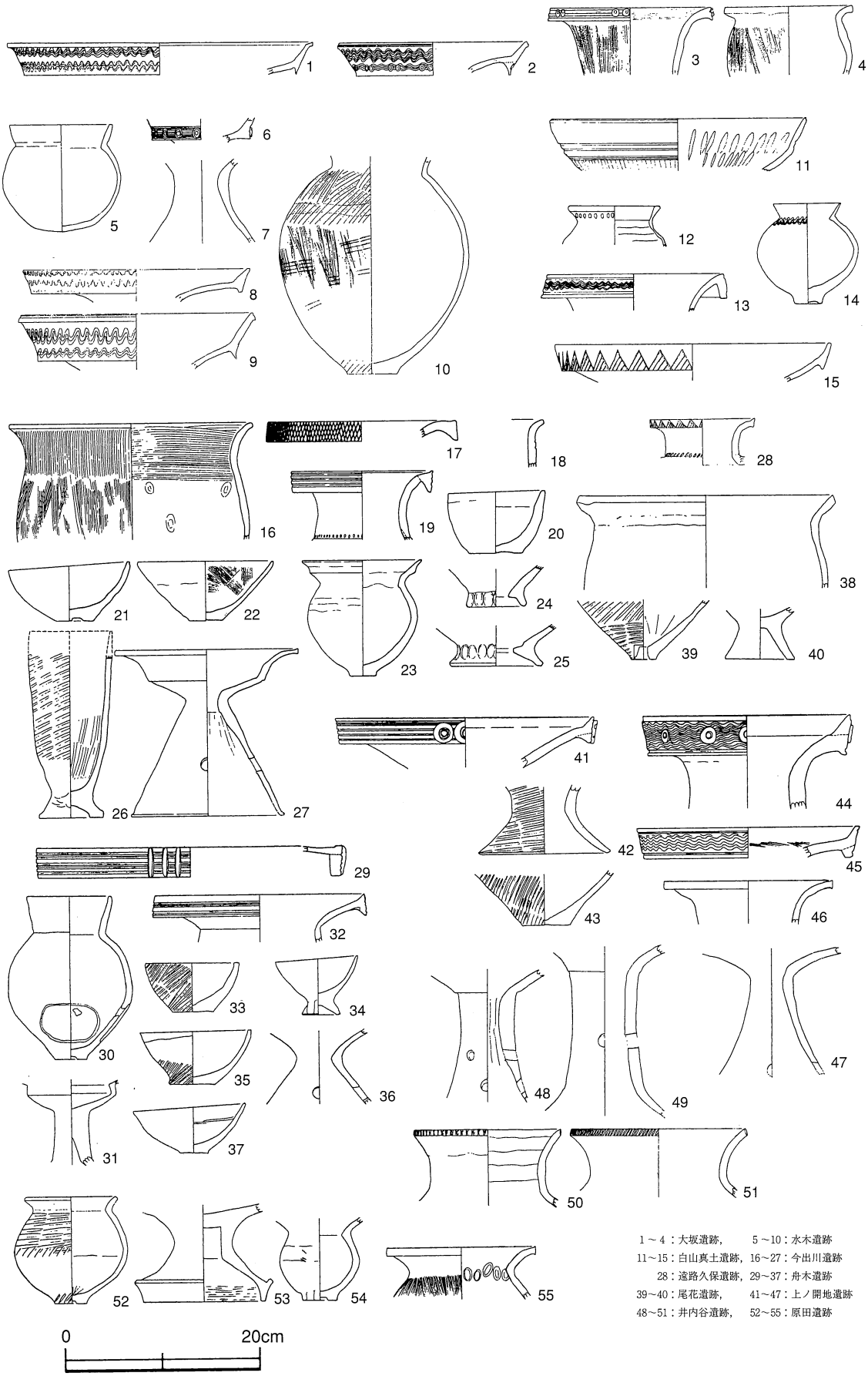
淡路地域の弥生時代前期の遺跡のうち，洲本市安乎間所遺跡[49]では弥生前期新段階の土器がV字溝から多く出土している。この溝は環濠と推定されており，縄文晩期土器も多量に出土している。他[50]には洲本市武山遺跡，同市生石遺跡，同市空の谷遺跡，同市下内膳遺跡，西淡町志知川沖田南遺跡や同町次郎谷遺跡，東浦町今出川遺跡，北淡町育波堂ノ前遺跡で弥生前期土器が出土しており，それらのほとんどは洲本・三原平野地域に存在している。下内膳遺跡では前期の溝が検出されており，その上層からは中期の土器も出土している。中期前半(Ⅱ～Ⅲ様式期)の土器では和泉地域の特徴を示す土器や紀伊地域からの搬入品と考えられる土器が多く認められるようである。また，中期後半(Ⅲ～Ⅳ様式期)に至っては，下内膳遺跡で土坑・溝のほか，方形周溝墓も6基築造されている[51]。一方，この時期には森遺跡[52]や寺中遺跡といった地形的にやや奥まった所や台地上に集落が営まれるようになる。下内膳遺跡や森遺跡から出土した土器は，基本的には畿内の土器の特徴を示すが，紀伊の影響を受けたものや瀬戸内東部の影響を受けたものもかなり認められる。しかし，Ⅳ様式期の寺中遺跡住居址出土土器では，畿内的な様相のみのようである。

三原平野の南東部，南淡町福良に所在する岩谷遺跡[53]は福良湾に面した低地の遺跡であり，包含層から中期末(Ⅳ様式期末)の土器が出土している。それらの土器は東四国の特徴を示す土器がほとんどで，特に甕では徳島県板野郡土成町北原遺跡[54]出土甕とほとんど同じ型式分類があてはまる。岩谷遺跡は地理的にも阿波地域と近く，土器様相からは阿波である。ただし，三原地域で同時期の他の資料が見当たらないため，この様相の時期的および地域的広がりは不明である。

洲本地域では中期末～後期初頭に，7棟の竪穴住居跡が検出されている，大森谷遺跡[55]が出現する。この遺跡は下内膳遺跡の西側丘陵斜面に位置し，標高は約40～60mで，10m前後の下内膳遺跡よりかなり高所に位置している。高地性集落と考えられる遺跡である。ここで高地性集落と呼ぶのは，かつて岡本稔氏[56]が谷間地あるいは山間地遺跡と呼んだものや，高地性遺跡と呼んだものの両者を含んでいる。

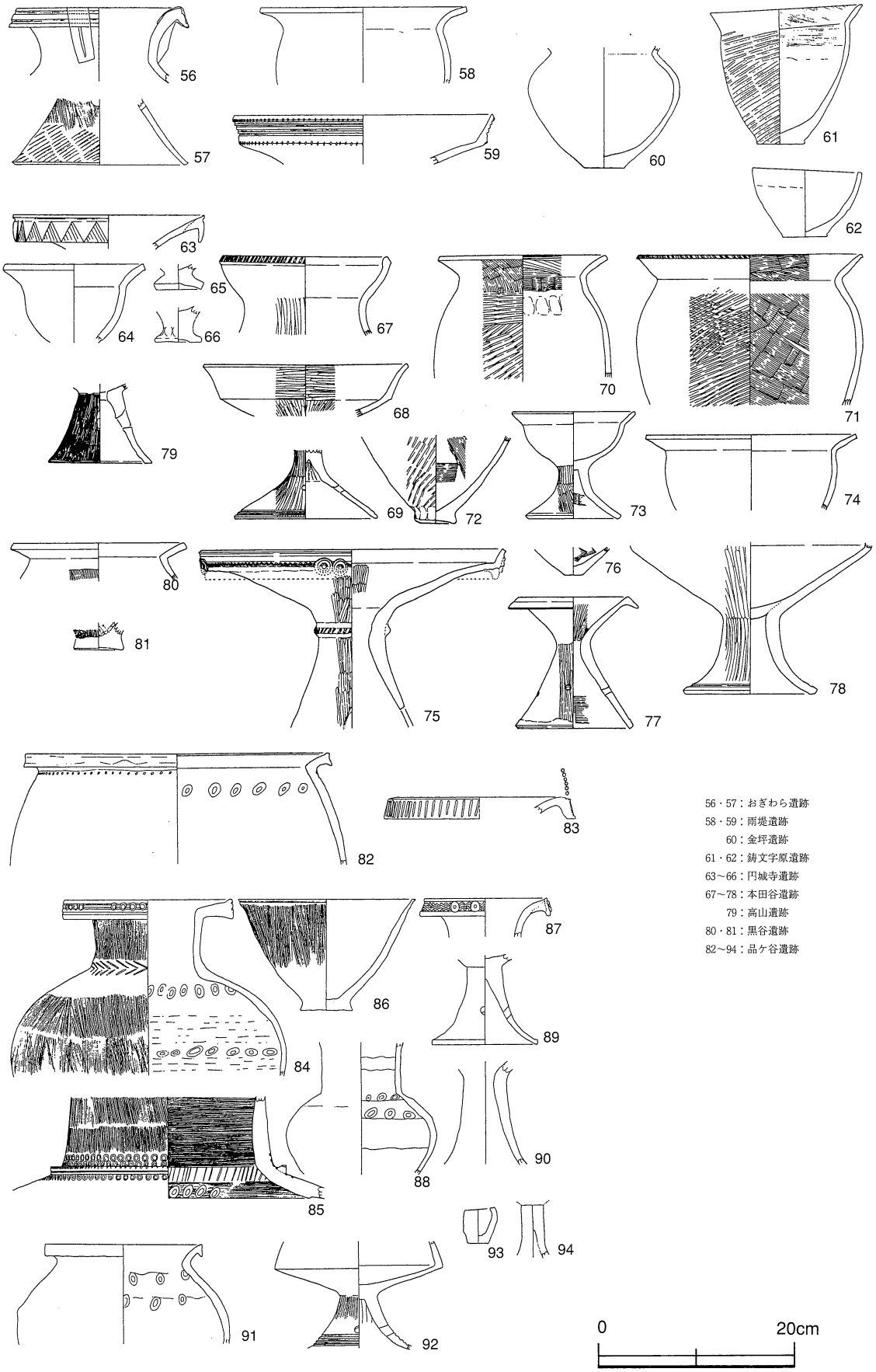
大森谷遺跡出土土器はⅠ地区1号住居址→Ⅱ地区周辺部下部包含層→Ⅱ地区大形土壙→Ⅰ地区下部包含層の各出土土器とその変化がたどれると思われるが，Ⅰ地区1号住居址出土の高杯が紀伊地域と同様の形態を示す以外は，甕をはじめとして各機種のほとんどが東四国の土器と非常に類似している。特に甕は，香川県高松市上天神遺跡[44]の型式分類があてはまる。大森谷遺跡は少なくとも後期中頃までに一度廃絶しているようであるが，下内膳遺跡が後期初頭頃の土器が出土していないことと考え合わせると興味深い。

淡路地域の弥生集落のうち，中期末頃に始まり，後期の終わり頃に一斉に消滅する集落が存在していることや，それらが平野から遠く離れた山の上や，山間地，丘陵上に遺跡が出現し，三原平野部には少



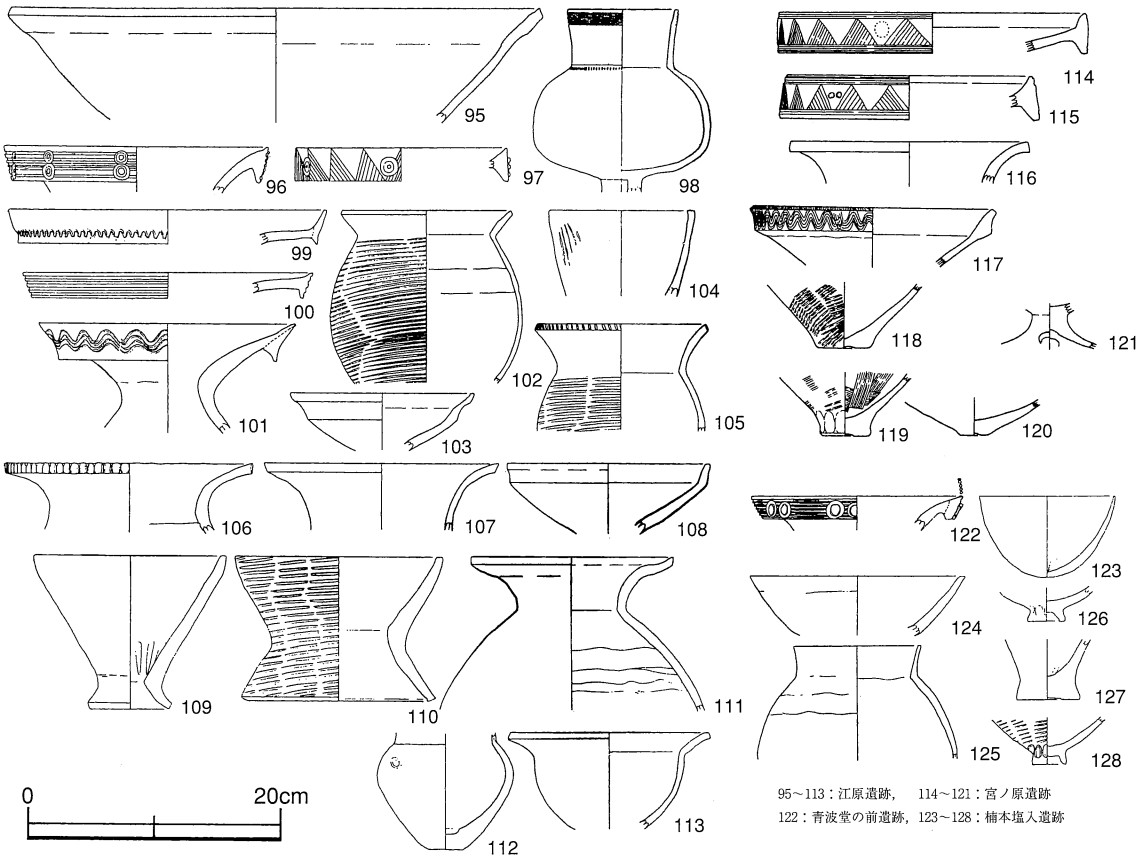
1～4：大坂遺跡，　5～10：水木遺跡
11～15：白山真土遺跡，16～27：今出川遺跡
28：遠路久保遺跡，29～37：舟木遺跡
39～40：尾花遺跡，　41～47：上ノ開地遺跡
48～51：井内谷遺跡，　52～55：原田遺跡

第62図　北淡路高地性集落の土器(1)



56・57：おぎわら遺跡
58・59：雨堤遺跡
60：金坪遺跡
61・62：鋳文字原遺跡
63～66：円城寺遺跡
67～78：本田谷遺跡
79：高山遺跡
80・81：黒谷遺跡
82～94：品ケ谷遺跡

第63図　北淡路高地性集落の土器(2)

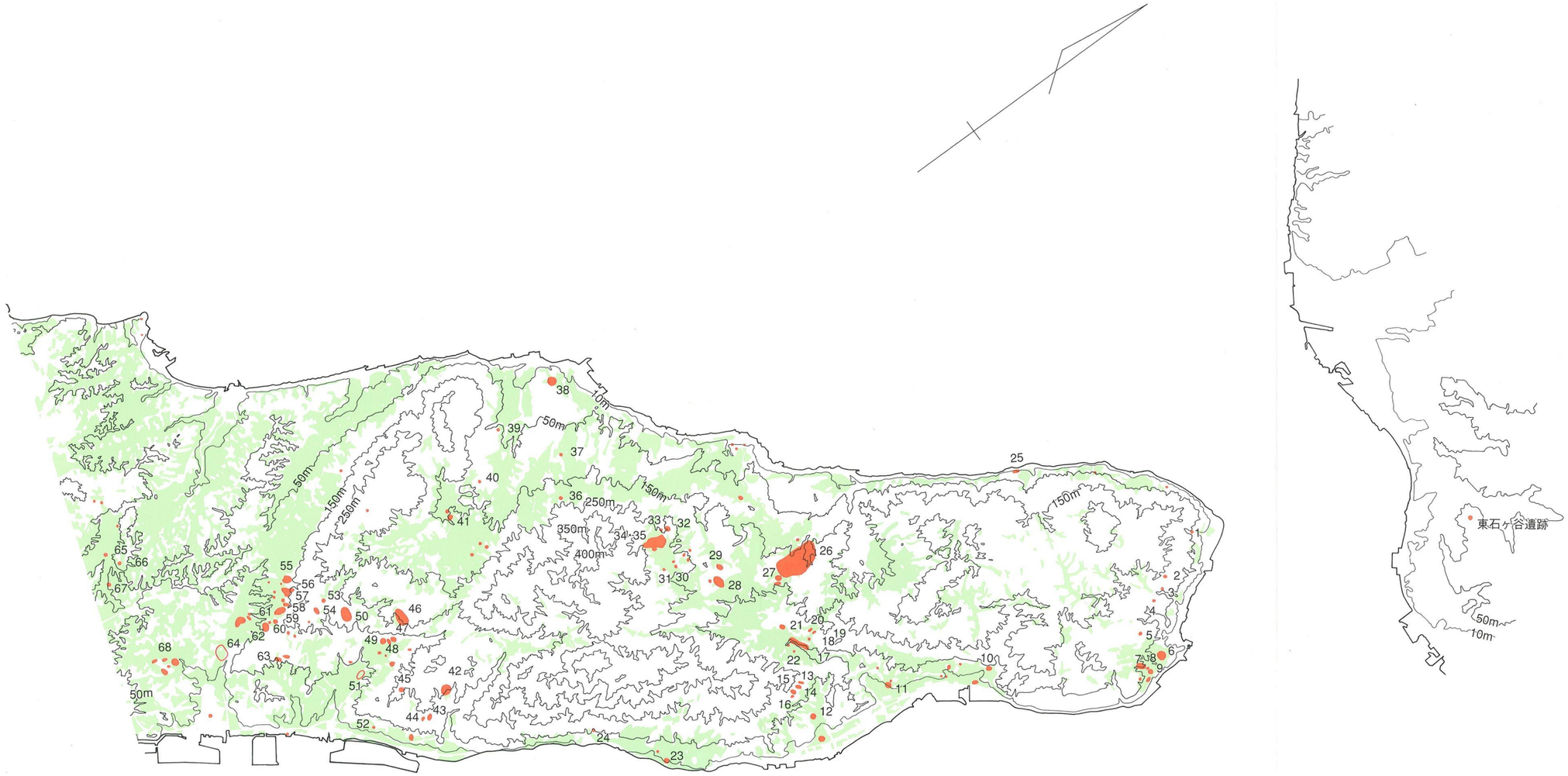


第64図　北淡路高地性集落の土器(3)

ないことが波毛康宏・浦上雅史両氏により指摘[56]されている。それらは特に淡路の北半部，津名郡域に目立ち，100遺跡以上存在しているようであるが，大森谷遺跡が中期末から後期前半，禿山・尼ヶ岡遺跡が後期後半から古墳時代初頭といったように，すべての遺跡が中期末から後期末の全期間存続するわけではないようである。以下，北淡路の高地性集落を中心に，出土土器・採集土器が公表されているもの[57]について，禿山・尼ヶ岡遺跡の編年案をもとに時期的位置づけおよび動態を探ってゆくことにする。

なお，土器の実測図は第62～64図に示し，各遺跡の分布図[58]は第65・66図[59]に示した。また，各遺跡の所属時期は第２表にゆずることとする。

中期末～後期初頭の遺跡のうち，品ケ谷遺跡の壺(第63図84・85)は東四国の土器に非常に類似する。また，第66図の分布図の飛谷遺跡[60]竪穴住居跡３出土土器も後期初頭に近い時期で，壺・甕・高杯とも東部瀬戸内の様相を示している。また，禿山・尼ヶ岡Ⅰ期以前とした大坂遺跡の壺(第62図３)や白山真土遺跡の高杯(第62図11)も東四国的様相に近い。また，低地に位置する遺跡は非常に少なく，時期も極めて限られるようであり，中期の遺跡では津名町天神遺跡がわずかに認められる程度で，しかも低地に近い位置に所在する。第65・66図をあわせて各遺跡の分布状況を観察すると，いくつかの遺跡のまとまりが窺える。それらは，大坂遺跡，水木遺跡，今出川遺跡など柿原地区と仮称する地区で，大坂遺跡を嚆矢とする。白山真土遺跡を嚆矢とし，規模の上からも核となる白山地区は，禿山遺跡，尼ヶ岡遺跡，岡遺跡を含み，河内遺跡や原遺跡も含まれるであろう。舟木地区は舟木遺跡を嚆矢・核とし，尾花遺跡などが含まれる。上ノ開地遺跡，井内谷遺跡などを含む仁井地区。原田遺跡を嚆矢とし，ほか５遺跡を含む原田地区と久野々遺跡を核とし，おぎわら遺跡，雨堤遺跡，金坪遺跡を含む久野々地区は両地区をあわせて久野々地区と呼べるかもしれない。鋳文字原遺跡を核とし，色目遺跡を含む生田地区，また，



第65図　北淡路の弥生時代遺跡分布図(1/100,000)

	遺跡名	所在地	時期(禿・尼編年)		遺跡名	所在地	時期(禿・尼編年)
1	湯の谷遺跡	淡路町岩屋	後期	35	久野々遺跡	北淡町久野々	Ⅰ・Ⅱ
2	サセブ遺跡	淡路町岩屋	後期	36	妙神谷遺跡	北淡町黒谷	後期
3	土穴遺跡	淡路町岩屋	後期	37	長守遺跡	北淡町黒谷	後期
4	砂嶺尾遺跡	淡路町岩屋	後期	38	育波堂の前遺跡	北淡町育波	後期
5	高尾遺跡	淡路町岩屋	Ⅰ以前	39	室津土井遺跡	北淡町室津	後期
6	まるやま遺跡	淡路町岩屋	後期	40	鋳文字原遺跡	北淡町生田	Ⅱ
7	塩壺西遺跡	淡路町岩屋	Ⅰ～Ⅱ	41	色目遺跡	北淡町生田	後期
8	塩壺東遺跡	淡路町岩屋	後期	42	円城寺遺跡	津名町佐野	Ⅰ？
9	塩壺遺跡	淡路町岩屋	後期	43	桑ノ戸遺跡	津名町佐野	後期
10	楠本下林遺跡	東浦町楠本	Ⅰ以前・Ⅲ	44	上殿遺跡	津名町佐野	後期
11	佃遺跡	東浦町浦	Ⅳ以降	45	本田谷遺跡	津名町佐野	Ⅱ～Ⅲ
12	今出川遺跡	東浦町久留麻	Ⅱ～Ⅲ	46	高山遺跡	津名町野田尾	Ⅰ以前～Ⅱ
13	千本遺跡	東浦町久留麻	後期	47	勢戸遺跡	津名町野田尾	後期
14	行免形遺跡	東浦町久留麻	後期	48	才川原遺跡	津名町野田尾	後期
15	大坂遺跡	東浦町久留麻	Ⅰ以前？	49	延命寺遺跡	津名町野田尾	後期
16	水木遺跡	東浦町久留麻	Ⅱ？	50	黒谷遺跡	津名町生穂	Ⅰ以前
17	白山真土遺跡	東浦町白山	Ⅰ以前・Ⅱ	51	林遺跡	津名町生穂	中期末
18	白山岡遺跡	東浦町白山	後期	52	畦ケ内遺跡	津名町佐野	後期
19	尼ヶ岡遺跡	東浦町白山	Ⅰ～Ⅴ	53	長谷川大池遺跡	津名町生穂	後期
20	禿山遺跡	東浦町白山	Ⅰ～Ⅲ	54	長谷A遺跡	津名町生穂	後期
21	原遺跡	東浦町白山	後期	55	遠松遺跡	津名町池ノ内	後期
22	河内遺跡	東浦町白山	後期	56	宮ノ原遺跡	津名町池ノ内	Ⅱ～Ⅲ
23	船頭ケ内遺跡	東浦町釜口	後期	57	丸塚遺跡	津名町池ノ内	後期
24	遠路久保遺跡	東浦町釜口	Ⅲ？	58	百田遺跡	津名町池ノ内	後期
25	貴船神社遺跡	北淡町野島	Ⅱ～Ⅲ	59	江原遺跡	津名町王子	Ⅱ～Ⅲ
26	舟木遺跡	北淡町舟木	Ⅰ以前・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	60	矢坪遺跡	津名町王子	後期
27	尾花遺跡	北淡町小田	後期	61	かじゃくぼ遺跡	津名町王子	後期
28	上ノ開地遺跡	北淡町仁井	Ⅱ？	62	油留手遺跡	津名町王子	後期
29	井内谷遺跡	北淡町仁井	Ⅱ頃	63	品ケ谷遺跡	津名町大谷	中期末～後期初頭
30	原田遺跡	北淡町仁井	Ⅰ以前	64	天神遺跡	津名町志筑	中期
31	穴郷遺跡	北淡町久野々	後期	65	馬場遺跡	津名町大町下	後期
32	おぎわら遺跡	北淡町久野々	Ⅰ・Ⅱ	66	奈良原遺跡	津名町大町畑	後期
33	金坪遺跡	北淡町久野々	後期	67	火打角遺跡	津名町大町畑	後期
34	雨堤遺跡	北淡町久野々	Ⅰ？	68	古城江A遺跡	津名町中田	後期

第2表　北淡路の弥生時代遺跡地名表

	遺跡名	時　期	備　　考		遺跡名	時　期	備　　考		遺跡名	時　期	備　　考
1	塩壺遺跡	V		10	おぎわら遺跡	V		19	老ノ内遺跡	Ⅳ	縄文後期あり
2	塩壺西遺跡	V		11	久野々遺跡	V		20	火打角遺跡	V	
3	佃遺跡	Ⅰ～Ⅵ	縄文から継続	12	堂の前遺跡	Ⅰ	縄文から継続	21	大向遺跡	Ⅳ	
4	今出川遺跡	Ⅰ～Ⅵ	Ⅲ・Ⅳ期未確認	13	円城寺遺跡	V		22	みのこし遺跡	V	
5	大坂遺跡	V		14	本田谷遺跡	V		23	宮山遺跡	V	
6	白山真土遺跡	V		15	延命寺遺跡	V		24	喜住遺跡	V	
7	禿山遺跡	V		16	品ケ谷遺跡	Ⅳ～V		25	飛谷遺跡	Ⅳ	
8	尼ヶ岡遺跡	V		17	江原遺跡	V		26	外ケ鼻遺跡	Ⅳ	縄文後期あり
9	舟木遺跡	V～Ⅵ		18	天神遺跡	Ⅳ					

第66図　津名郡における弥生時代の遺跡（伊藤宏幸氏作成）

円城寺遺跡，桑ノ戸遺跡，上殿遺跡を含む佐野地区も設定できるかもしれない。野田尾地区は黒谷遺跡，高山遺跡を嚆矢とし，林遺跡，延命寺遺跡，才川原遺跡，勢戸遺跡ほかを含む。品ケ谷遺跡を嚆矢とする王子・池ノ内地区は江原遺跡，宮ノ原遺跡，油留手遺跡，かじゃくぼ遺跡，矢坪遺跡，百田遺跡，丸塚遺跡，遠松遺跡ほかを含む。ほかに，馬場遺跡を初現とし，奈良原遺跡，火打角遺跡などを含む大町地区，古城江Ａ遺跡ほか４遺跡を含む中田地区があげられ，五色町では，中期末の大向遺跡を嚆矢とする仮称大宮・吉田地区がみのこし遺跡，宮山遺跡ほかを含むようであり，仮称広石地区では，外ケ鼻遺跡，飛谷遺跡，喜住遺跡ほかを含む。これらの地区は遺跡群として，集落のまとまりとしてとらえることができ，核となる集落は同地区内の集落も含み，各地区は一つの集落として考えると，各地区＝集落が継続して存在しているものが多くなる。そして，核以外の集落はその出先的性格が考えられ，地区からはずれた集落もいずれかの地区に属する出先ととらえてよいものと考えられる。その性格としてはやはり防御のための見張りを考えたい。

各地区の立地場所を第65・66図から観察すると，海からは直接見えにくい場所，丘陵で囲まれた盆地のような場所にあたり，いわゆる隠れ里のような位置にあり，しかも，集落からは海が見える場所であり，特に舟木遺跡では播磨灘のみならず大阪湾も見える位置である。また，現在の土地利用と重ね合わせると，いずれも水田地帯(第65図の緑色)である。久野々地区は標高300m近いにも関わらず，水田経営がなされているのは，地下水位が高いことと，造成－耕地化しやすい花崗岩風化土という地質条件に恵まれているからと考えられ，弥生時代においても，谷水田の経営が可能であったものと推察される。

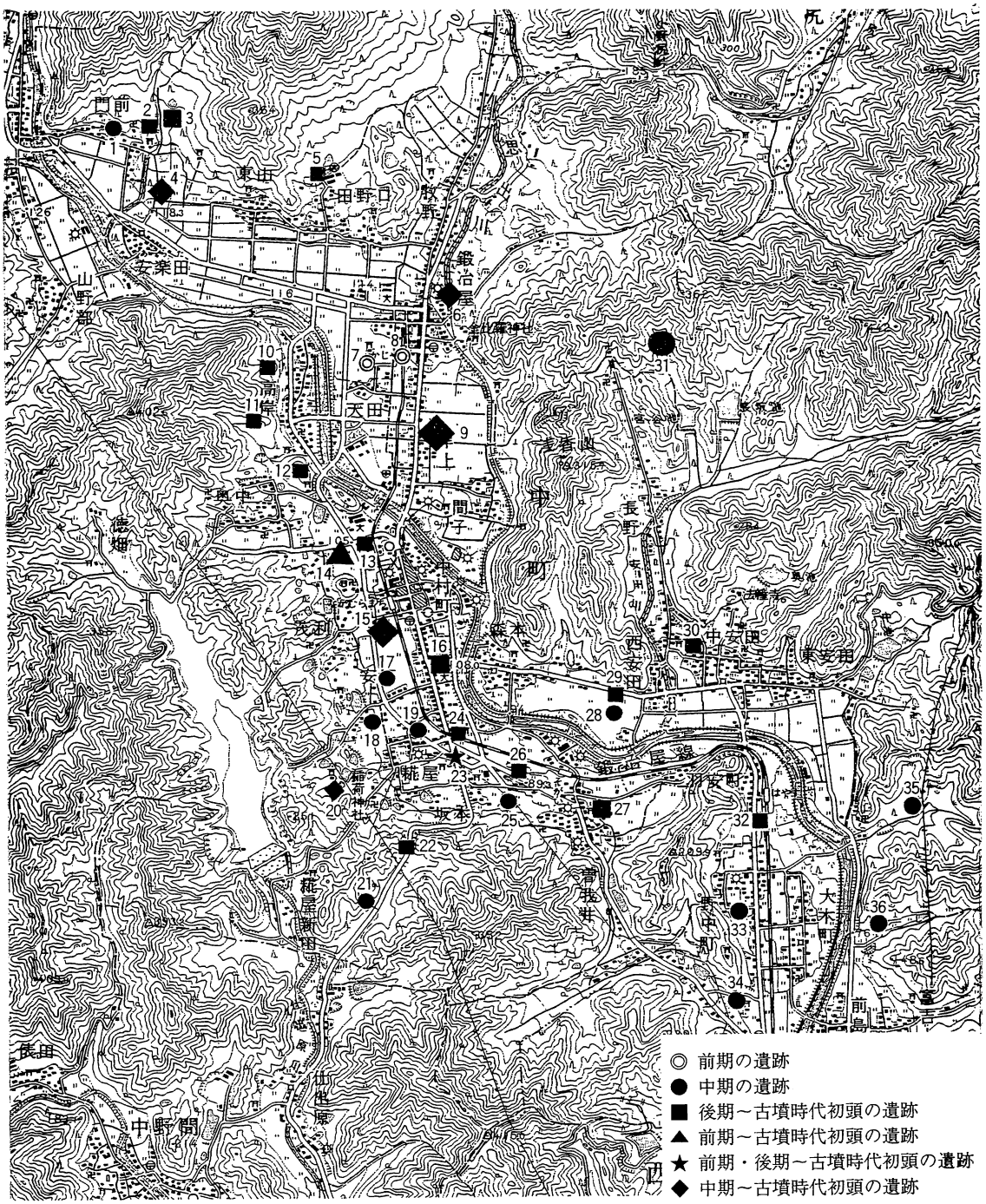
なお，集落の隠れ里的立地は他地域にも認められる。第67図[61]は播磨北部，西脇市と多可郡中町であるが，中期末(Ⅳ様式期)の大木遺跡(35)や西安田長野遺跡Ｋ・Ｌ地点(31)は入り口を丘陵で狭められた盆地状地形に立地し，中期末の短い期間のみ存続する集落である。

このような集落は高地に存在する集落と同様，防御のための集落と考えられ，これまでの高地・低地という高低のみではなく，周りを丘陵で囲まれ，周囲から非常に見えにくい立地も防御の範疇でとらえるべきであり，また，不便な場所という点や時期的に短期で消滅するということも考慮すべきものであろう。

北淡路地域では，それまで大きな集落が認められないにも関わらず，中期末～後期初頭に突然集落が数多く現れ，後期末～古墳時代初頭には消滅し，しかも，低地に降りた形跡も少ない。これらの集落は，政治的混乱・社会不安などの要因による防御的集落と考えられ，しかも水田経営可能で，外からは見えにくく，集落から周りが見やすい位置を選んでいるのである。

なお，北淡路における出現段階の中期末～後期初頭の高地性集落では，これまでの土器様相が一転して東部瀬戸内(東四国)の様相を示し，低地の集落が途切れる。しかし，後期後半には畿内的土器様相になり，甕では畿内と同様の型式変化を辿る。このことは，東部瀬戸内(東四国)の人々が移住してきたか，畿内の影響により変化したものか，畿内の人々にとってかわったかのいずれかが考えられる。現段階では，河内の搬入品が認められることから，前者を考えたいが，この点については，今後，各集落のそれぞれの動態(継続または断絶)を検討する必要がある。また，東部瀬戸内(東四国)の人々の移動が能動的か受動的かについても今後の課題である。

淡路地域出土土器をみると，中期後半までは各地域との平和的交流であったものが，中期末～後期初頭において一変するのである。なお，後期末以降の三原地域南部の谷町筋遺跡[62]では出土土器の大半が東四国の様相を呈するが，洲本地域や北淡路では畿内的な様相のようである。



１．門前・上山遺跡　２．門前八幡神社裏山遺跡　３．安楽田・女夫岩遺跡　４．貝野前遺跡
５．東山古墳群　６．牧野・大日遺跡　７．多哥寺遺跡　８．鍛冶屋・下川遺跡
９．思い出遺跡　10．高岸・コブサン山遺跡　11．高岸・茨谷遺跡　12．新宮山遺跡
13．軍勢遺跡　14．奥中・三内遺跡　15．安坂・城の堀遺跡　16．森本・上島原遺跡
17．安坂・津ぶら遺跡　18．安坂・門田遺跡　19．糀屋・北縄手遺跡　20．糀屋・上池遺跡
21．坂本・観音谷遺跡　22．産坂遺跡　23．糀屋・土井の後遺跡　24．糀屋・里の垣内遺跡
25．坂本・丁田遺跡　26．曽我井・沢田遺跡　27．曽我井・野入遺跡　28．西安田・岩ケ鼻遺跡
29．西安田・山根遺跡　30．西安田長野遺跡Ａ地点　31．西安田長野遺跡Ｋ・Ｌ地点　32．野中・前遺跡
33．野中・ハゼノ木遺跡　34．大木・郡新田遺跡　35．大木遺跡　36．前島遺跡

第67図　杉原川中流域における弥生時代遺跡

〔註・参考文献〕

(1)三原慎吾ほか『まるやま遺跡－本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ－』 兵庫県文化財調査報告第178冊 兵庫県教育委員会 1998年

(2)『丸山遺跡現地説明会資料』 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1994年

(3)『舟木遺跡』 北淡町教育委員会 1994年

(4)深井明比古ほか『佃遺跡－本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ－』 兵庫県文化財調査報告 第176冊 兵庫県教育委員会 1998年

(5)岡本 稔・広岡俊二・松下 勝「北淡路の遺物」『兵庫考古』第9号 兵庫考古研究会 1980年

(6)松岡千寿ほか『塩壺西遺跡－本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ－』 兵庫県文化財調査報告 第160冊 兵庫県教育委員会 1997年

(7)『塩壺遺跡現地説明会資料』 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1995年

(8)伊藤宏幸ほか『楠本下林遺跡－町道刈畑線改良工事に伴う発掘調査報告書－』 東浦町埋蔵文化財調査報告書第1集 東浦町教育委員会 1997年

(9)甲斐昭光「おぎわら遺跡の調査」『北淡町久野々遺跡－一般農道整備事業(仁井Ⅱ期地区)に伴う発掘調査報告書－』 兵庫県文化財調査報告 第167冊 兵庫県教育委員会 1997年

(10ａ)伊藤宏幸「久野々遺跡第1次調査」『北淡町久野々遺跡』 前出(9)文献

(10ｂ)川吉知子「久野々遺跡第2次調査」『北淡町久野々遺跡』 前出(9)文献

(11)波毛康宏「白山真土遺跡」『季刊 淡路の文化』第3巻第4号 1981年

(12)『貴船神社遺跡現地説明会資料』 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1995年

(13)平成9年度に東浦町教育委員会により発掘調査が実施された。

(14)渡辺 昇「浜田遺跡」『製塩遺跡Ⅰ(津名郡)』 兵庫県生産遺跡調査報告 第2冊 兵庫県教育委員会 1993年

(15)吉田 昇・岸本一宏ほか「藤ノ木遺跡」『中原遺跡他発掘調査報告書－本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ－』 兵庫県文化財調査報告 第159冊 兵庫県教育委員会 1997年

(16)岸本一宏ほか「井ノ谷遺跡」『中原遺跡他発掘調査報告書』 前出(15)文献

(17)吉田 昇・岸本一宏ほか「外町遺跡」『中原遺跡他発掘調査報告書』 前出(15)文献

(18)平成5年度に淡路町教育委員会により発掘調査が実施された。

(19)森岡秀人「弥生時代抗争の東方波及－高地性集落の動態を中心に－」『考古学研究』第43巻第3号 1996年

(20)高杯Ａｃは，本来別分類とすべきであるが，限られた資料であるため，暫定的に高杯Ａに含めて分類しておく。
今後，資料の増加によって，別分類，あるいは台付鉢などの別器種として分類すべきであろう。

(21)前出(5)文献。なお，「北淡路」の呼称範囲については本文献と基本的には同じであるが，本書では津名山地部分を北淡路と呼ぶ場合もある。

(22)山田清朝「出土遺物のまとめ」『洲本市下内膳遺跡』 兵庫県文化財調査報告 第155冊 兵庫県教育委員会 1996年

(23)山田清朝ほか『洲本市下内膳遺跡』 前出(22)文献

(24)津名郡町村会 伊藤宏幸氏の御教示。

(25)伊藤宏幸「舟木遺跡(第1次)」『製塩遺跡Ⅰ(津名郡)』 前出(14)文献

(26)吉識雅仁・岸本一宏ほか『寺中遺跡－淡路縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－』 兵庫県文化財調査報告 第64冊 1988年

(27)松下 勝・別府洋二ほか『淡路・志知川沖田南遺跡』 兵庫県文化財調査報告書 第40冊 兵庫県教育委員会 1987年

(28)南 博史ほか『口酒井遺跡－第11次発掘調査報告書－』 伊丹市教育委員会・㈶古代学協会 1988年

(29)森田克行・橋本久和『安満遺跡発掘調査報告書－9地区の調査－』 高槻市文化財調査報告書 第10冊 高槻市教育委員会 1977年

(30)森田克行「各地域の土器編年 摂津地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ 木耳社 1990年

(31)福井英治ほか『田能遺跡発掘調査報告書』 尼崎市文化財調査報告 第15集 尼崎市教育委員会 1982年

(32)森岡秀人「会下山遺跡出土土器特論」『新修芦屋市史』資料編Ⅰ 芦屋市役所 1976年

(33)森岡秀人「畿内第Ⅴ様式の編年細分と大師山遺跡出土土器の占める位置」『河内長野大師山』 関西大学文学部考古学研究 第5冊 関西大学 1977年。なお，筆者は塩壺西遺跡出土土器を禿山・尼ヶ岡Ⅰ～Ⅱ期併行とし，後期後半の前葉に位置づけたが，森岡氏による塩壺西遺跡出土土器の編年的位置づけ(森岡秀人「年代論と邪馬台国論争」『古代史の論点4 権力と国家と戦争』小学館 1998年)と一致することを付記しておく。

(34)奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ』 奈良国立文化財研究所学報 第37冊 1980年

(35)豊岡卓之「『畿内』第Ⅴ様式暦年代の試み(上)(下)」『古代学研究』108・109　1985年

(36)寺澤　薫「大和におけるいわゆる第五様式土器の細別と二・三の問題」『奈良市六条山遺跡』　奈良県文化財調査報告書第34集　奈良県教育委員会　1980年

(37)山本三郎ほか『播磨大中遺跡の研究』　播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館　1990年

(38)勇　正広・藤岡　弘・橋爪康至ほか『中ノ田遺跡』　兵庫県文化財調査報告書　第2冊　兵庫県教育委員会　1971年，岡田　務ほか『尼崎市中ノ田遺跡Ⅲ』　尼崎市文化財調査報告　第22集　尼崎市教育委員会　1991年

(39)寺澤　薫「各地域の併行関係・解説」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ　木耳社　1989年，森岡秀人「各地域の併行関係・解説」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ　木耳社　1990年

(40)寺澤　薫「畿内古式土師器の編年と二、三の問題」『矢部遺跡』　奈良県史跡名勝天然記念物調査報告　第49冊　奈良県教育委員会　1980年

(41)大久保徹也「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『下川津遺跡　瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ』　香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団　1990年

(42)「矢野遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報vol.4　1992年度』　(財)徳島県埋蔵文化財センター　1993年

(43)菅原康夫『黒谷川郡頭遺跡Ⅰ』昭和59年度発掘調査概報　徳島県教育委員会　1986年

(44)(財)香川県埋蔵文化財調査センター編『上天神遺跡』高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第6冊　1995年

(45)土井孝之「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ　木耳社　1989年

(46)丸山　潔・松林宏典『舞子・東石ヶ谷遺跡Ⅱ』　神戸市教育委員会　1990年

(47)深澤芳樹氏も指摘している。深澤芳樹「弥生時代の近畿」『岩波講座　日本考古学』5文化と地域性　岩波書店　1986年

(48)多賀茂治「弥生時代後期～古墳時代前期の土器」『神戸市西区　玉津田中遺跡－第6分冊(総括編)－』－田中特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－兵庫県文化財調査報告　第135－6冊　兵庫県教育委員会　1996年

(49)浦上雅史『安乎間所遺跡発掘調査概報』　洲本市文化財調査報告　第4集　洲本市教育委員会　1985年

(50)以下，各遺跡の概要については，波毛康宏・浦上雅史「淡路国　弥生文化」『兵庫県の考古学』　村川行弘編　地域考古学叢書　吉川弘文館　1996年による。また，全体的な様相については，洲本市立淡路文化史料館編『図説・邪馬台国の時代と淡路島』　1987年による。

(51)『下内膳遺跡発掘調査Ⅴ　略報3』　洲本市教育委員会　1991年

(52)吉識雅仁ほか『森遺跡－淡路縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－』　兵庫県文化財調査報告書　第55冊　兵庫県教育委員会　1988年

(53)坂口弘貢・定松佳重ほか『岩谷遺跡発掘調査報告書』　南淡町文化財調査報告書　第2集　南淡町教育委員会　1995年

(54)『土成町北原遺跡』－内陸工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－　徳島県教育委員会　1988年，『北原～大法寺遺跡・十楽寺遺跡・椎ヶ丸～芝生遺跡』－四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告6－　徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第6集　(財)徳島県埋蔵文化財センター編　1994年

(55)別府洋二・平田博幸・市橋重喜ほか『大森谷遺跡－淡路縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－』　兵庫県文化財調査報告　第27冊　兵庫県教育委員会　1985年

(56)岡本　稔「淡路の弥生式時代の考察－洲本川流域の遺跡を中心として－」『淡路考古学研究会誌』第2号　淡路考古学研究会　1974年

(57)第62～64図に示した実測図のうち，白山真土遺跡については，前出(11)文献，本田谷遺跡・高山遺跡・黒谷遺跡・宮ノ原遺跡については，伊藤宏幸『津名町遺跡分布図－町内遺跡詳細分布調査報告書－』　津名町埋蔵文化財調査報告書第1集　津名町教育委員会　1997年に，その他の遺跡は前出(5)文献によった。

(58)遺跡の分布図作成にあたっては，津名郡町村会 伊藤宏幸氏，北淡町教育委員会 川吉知子両氏の御教示・御協力を得た。記して謝意を表する。

(59)第66図の出典は，前出(9)・(10)文献である。

(60)現地説明会資料による。津名郡町村会 伊藤宏幸氏の御教示を得た。

(61)第67図の出典は，宮原文隆『糀屋・土井の後遺跡Ⅰ－ウェルマート建設に係る文化財発掘調査－』　中町文化財報告14　中町教育委員会　1997年　である。

(62)吉識雅仁・西口圭介ほか『谷町筋遺跡－淡路縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ－』　兵庫県文化財調査報告　第73冊　兵庫県教育委員会　1990年